

あいさつ運動の好事例

津山市立勝加茂小学校
(児童数 134 名 教職員数 23 名)

あいさつ大使とあいさつを増やそう！

【アピールポイント】

運営委員会を中心に企画。朝あいさつ大使が教室をまわり、教室を盛り上げていく運動。運営委員会だけでなく、4～6年生までが順番にあいさつ大使になり経験するというのも、高学年としての意識が芽生えて効果的。

あいさつ大使がつけるたすきは、6年生が思いをこめて製作した。



【取組の概要】

■児童生徒の実態

明るく素直な児童が多い。生活面では、「あ・ろ・は」運動に全校で取り組んでいる。あいさつ、ろうかを走らない、はきものをそろえるという内容で、あいさつ・はきものについては、どの学年も定着してきた。下駄箱のはきものはそろっており、自分からあいさつできる児童も増えてきた。学習面では、落ち着いて意欲的に学べており、基礎基本の力もついてきている。

■活動内容

運営委員会であいさつの実態を把握し、あいさつを増やすためにあいさつ大使の取組みを導入した。1学期当初は運営委員で、途中から5・6年にも呼びかけ、順番に運営委員と一緒に教室をまわり、あいさつタッチをした。2学期は、4年生にも参加してもらい活動中。12月にはPTAの役員さんにも参加してもらい、玄関前であいさつタッチをする予定。

■取組の参加メンバー

運営委員会が中心となって実施

■成果・効果

あいさつ大使がまわっていくと、教室から元気なあいさつが聞こえてくるようになった。高学年であいさつができにくい子も、あいさつ大使になれば、多方面から意識することができる。あいさつの実態を振り返りながら、児童が取組みを工夫し活動するのもよかった。しかし、自然なあいさつは、まだ十分とはいえないので、さらに高めていきたい。